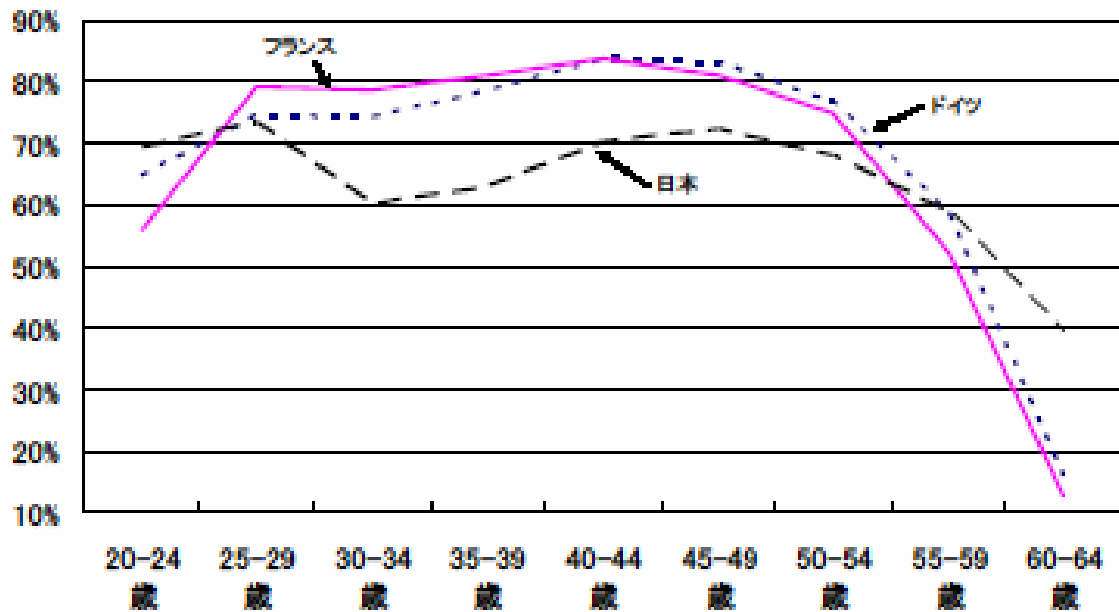


フランスとドイツの働き方の比較

図表 2 フランス・ドイツ・日本の年齢階級別女性の労働力率(2003年)

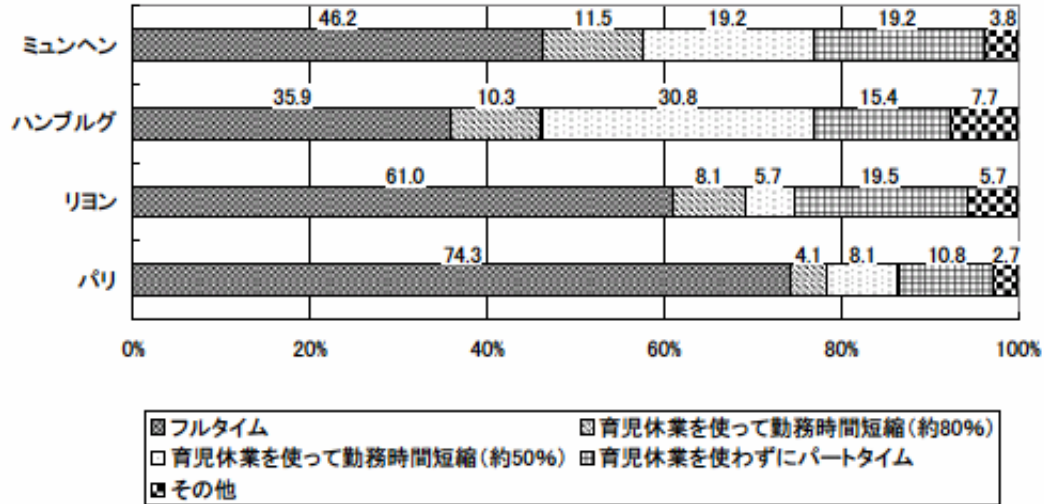


出典：OECD "Labour Market Statistics"

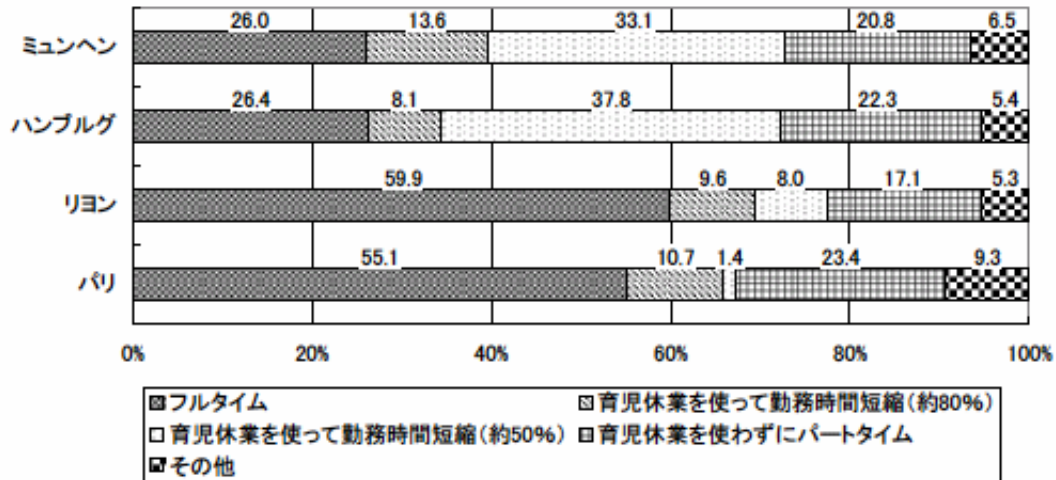
資料：フランスとドイツの家庭生活調査（平成17年 内閣府経済社会総合研究所編）

1. フランスでは、ドイツよりもフルタイムで復職する割合が高い。

図表8-23 都市別 妻の復職時の働き方(2期)



図表8-24 都市別 妻の復職時の働き方(3期)



資料：フランスとドイツの家庭生活調査（平成17年 内閣府経済社会総合研究所編）

注：ここでいう2期とは、フランス1985年～1993年、ドイツ1985年～1991年であり、3期は、フランスで1994年以降、ドイツで1992年以降を指す。

2. フランスの働き方の特徴

○育児休業と職場復帰

①スウェーデンで多いパターン

出産後1年以上育児休業 → 勤務時間を短縮して職場復帰 → フルタイム勤務

②フランスでは多様なパターン

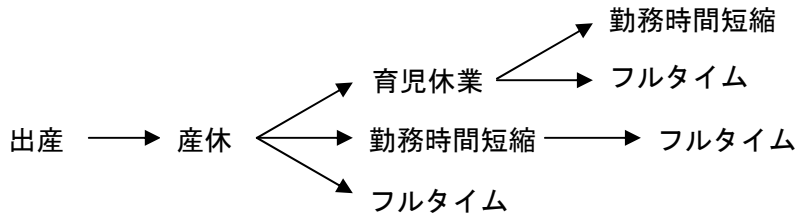
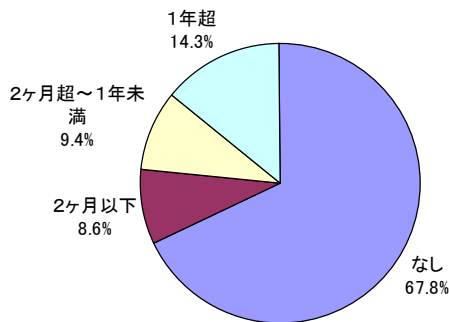


図 育児休業と復職時の働き方

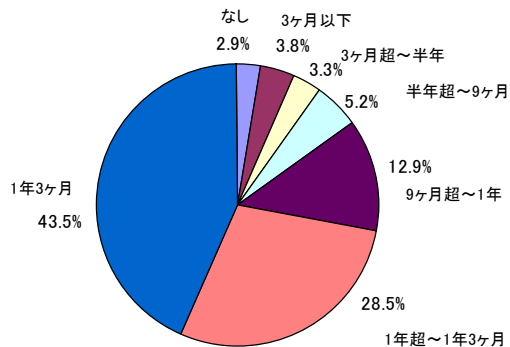
フランス（パリ）

（女性が終日の育児休業を取得した期間）

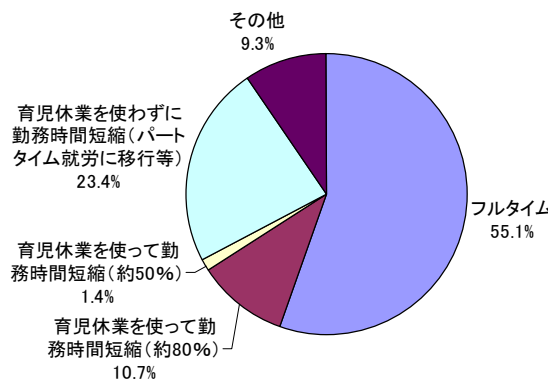


スウェーデン（ストックホルム）

（女性が終日の育児休業を取得した期間）



（女性の産休・育児休業後の復職時の働き方）

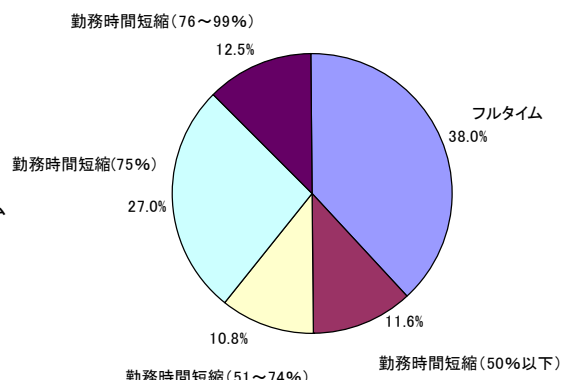


出所：内閣府経済社会総合研究所編（2005年）

「フランスとドイツの家庭生活調査」

注：○内の%は、フルタイムの労働時間に比較した労働時間

（女性の産休・育児休業後の復職時の働き方）



出所：内閣府経済社会総合研究所編「スウェーデン家庭生活調査」（2004年）

注：○内の%は、フルタイムの労働時間に比較した労働時間

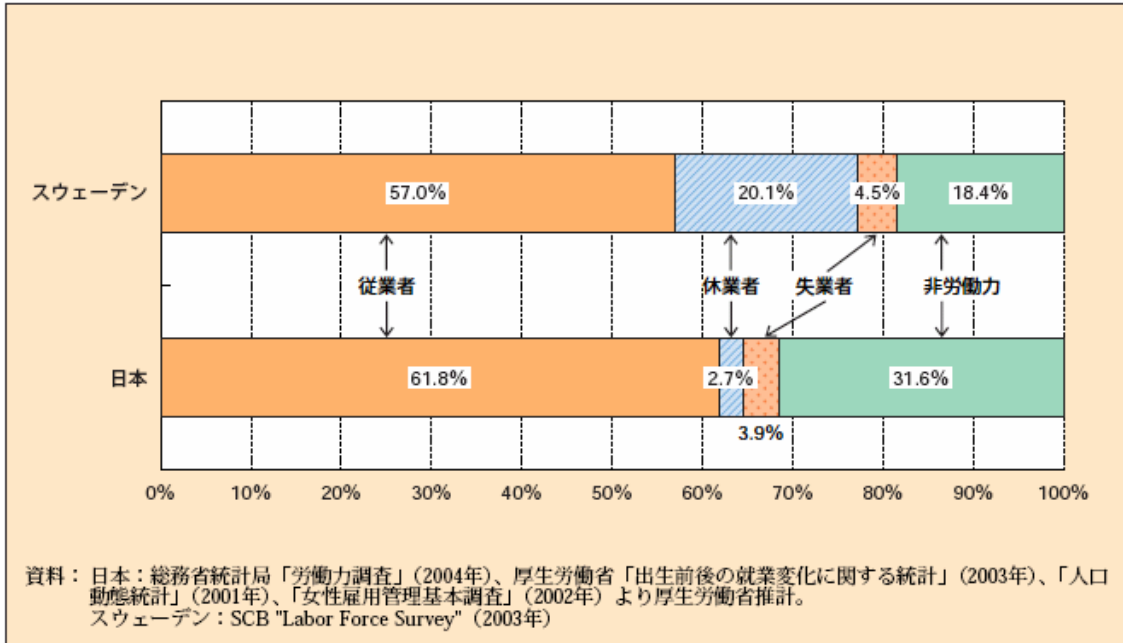
注1：①日本の女性の育児休業取得率は、73.1%。（厚生労働省「平成15年度女性雇用管理基本調査」）。
 なお、女性の育児休業取得期間は「10ヶ月～12ヶ月未満」が41.4%と最も多かった。（厚生労働省「平成14年度同調査」）。

②また、出産前に就業していた女性の67.4%が、出産後仕事を辞めている（厚生労働省「第1回21世紀出生児横断調査」）。

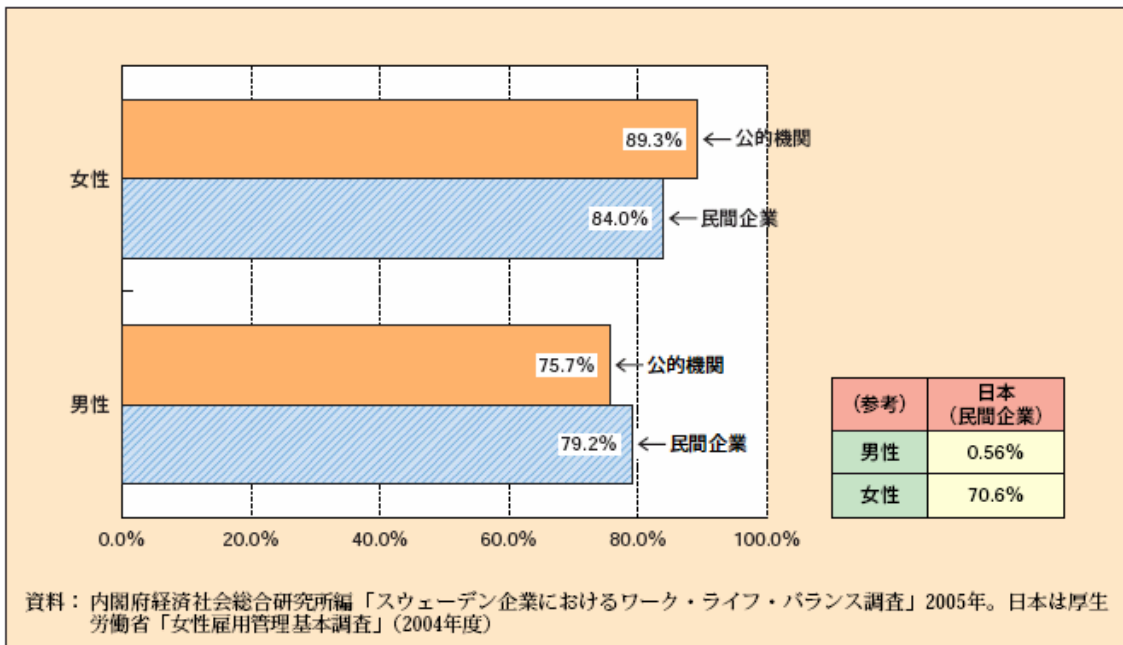
注2：フランス（パリ）、スウェーデン（ストックホルム）、東京については、35～44歳の有配偶男女を対象に調査。（以下図表9まで同様。ただし図表5のスウェーデンと東京は除く。）

(参考) 日本の働き方の特徴

第1-4-6図 25~34歳女性の労働力率 (2004年)



第1-4-5図 スウェーデンの育児休業取得率



・日本の場合、女性の育児休業の取得率は約70%であるが、仕事を持っている女性のうち第1子出生の場合には67.4%が、第2子出生以上の場合には、34.5%が出産で無職となっている現状(厚生労働省「21世紀出生児縦断調査」結果による)があり、実質的な取得率はかなり低いと推測される。